

## 2015年 七ヶ浜音楽アウトリーチ 報告書

### 《本事業のねらい》

- ・鑑賞型プログラムでは、児童が五感を研ぎ澄まして演奏に集中する環境の中で、音楽が本来もつ素晴らしさを感じ、想像力を引き出すことを目指す。
- ・ワークショップでは、音を媒体とする活動に児童が主体的に参加することで、「協働すること」、「即興すること」、「身体を使うこと」、「個を認めること」、そして、「コミュニケーションをとるということ」を自ら学び取ることを目指す。

### 《実施概要》

参加者：仲道郁代 ファシリテーター10名

11月10日（火） 七ヶ浜町立汐見小学校

2時限目（9:35～10:20）「鑑賞型プログラム」（6年生 77名）音楽室

3時限目（10:40～11:25）「ワークショップ」（6年1組 40名）音楽室・教室

4時限目（11:30～12:15）「ワークショップ」（6年2組 37名）音楽室・教室

11月11日（水） 七ヶ浜町立松ヶ浜小学校

2時限目（9:30～10:15）「鑑賞型プログラム」（6年生 76名）音楽室

3時限目（10:40～11:25）「ワークショップ」（6年1組 38名）音楽室・教室

4時限目（11:35～12:20）「ワークショップ」（6年2組 38名）音楽室・教室

11月12日（木） 七ヶ浜町立亦楽小学校

2時限目（9:30～10:15）「鑑賞型プログラム」（6年生 48名）音楽室

3時限目（10:35～11:20）「ワークショップ」（6年1組 24名）音楽室・教室

4時限目（11:25～12:10）「ワークショップ」（6年2組 24名）音楽室・教室

11月13日（金） 多賀城市立天真小学校

2時限目（9:40～10:25）「鑑賞型プログラム」（6年生 51名）音楽室

3時限目（10:45～11:30）「ワークショップ」（6年1組 25名）音楽室・教室

4時限目（11:40～12:25）「ワークショップ」（6年2組 26名）音楽室・教室

\*活動終了後に児童と教師に対してアンケートを実施。

## 《内容》

### ◎鑑賞型プログラム（45分）

#### ➤ 導入～音への集中力を高めて、鑑賞の下地をつくる

##### 1) 不思議なオルゴール～音楽の世界へ入ろう

(活動の様子)

仲道氏が、手の平に乗せた小さなオルゴールのねじを巻き、ピアノの響板の上にそっと乗せると、オルゴールの音が大きくなって響く。また、音叉を一打ちして、児童の耳元に近づけると、本人には音が聞こえるが、他の児童には聞こえない。それをピアノの響板に付けると、スピーカーのように音が大きくなり皆に聞こえてくる。不思議な体験に児童らは一気に集中していく。



(児童の感想文より)

- ・ピアノの中にオルゴールを置くと音が大きくなるのがとてもびっくりしました。

##### 2) 音の実験～音叉とピンポン球を用いて、空気の振動を可視化する実験を行う。

音叉を一打ちして響かせ、ひもで吊るしたピンポン球を近づけると、ピンポン球は跳ね始めるという現象を通じて、音が振動となって空気中を伝わるという事を体験する。最初は仲道氏がやって見せて、次に児童にやらせてみる。



(児童の感想文より)

- ・動かしていないのに球がはじくのも、すごかったです。

#### ➤ 想像力を働かせて作品を味わう

##### 3) 鑑賞① エオリアンハーブ（ショパン）

朝・昼・夜のどれを表した曲か、想像しながら演奏を聴き、どうしてそう思ったのかその理由を児童に発言させる。音楽からイメージすることは誰でも自由であり、どのような感じ方をしてもすべて正解であることを知る。



\*児童の意見

- ・リズムが早いところが朝早く起きて忙しい感じ。
- ・最初にテンポが速くて、夜から朝に切り替わって感じだけど、最後は遅くなってみんなが起きちゃった感じ。
- ・上下の強さと弱さがあつたから、だんだんお日様が昇っていく感じ。
- ・何となく太陽のまぶしさが音に出ていた。音が明るい感じ。
- ・音を聴きながら考えてたんだけど、空の感じがした。朝と昼はちょっと違うから、夜かなと思った。
- ・お星さまがワーって感じ。星がきれいだった。

\*仲道氏のことば

いろいろ違って面白いね。どれもが正解。みんなが思うことが大事。いつも自分で選んで考えるってとても大切。空気の時間が変わっていく感じに気が付いたんだね。

#### 4) 鑑賞② 雨だれ (ショパン)

雨の情景が音楽になること、降り続く雨の音は途中どのように変わるかを、想像しながら聴く。雨の部分、晴れの部分など響きの違いを感じとる。



\*仲道氏のことば

- ・ザー、しとしと、いろんな雨の音があるね。どんなふうに降っているのか。冷たい雨？温かい？ひとり、それとも誰かと一緒？家の中で見ているの？雨を見ている人は明るい気持ちなのか暗い気持ちなのか？想像しながら聴いてください。
- ・雨が降っている情景を見ることが出来たかな？（ここでは個別の意見は求めず）

#### 5) 鑑賞③ 雨の樹素描 (武満徹)

「雨の木を聴く女たち」(大江健三郎)より「頭のいい雨の木」という文の朗読後、その作品にインスピレーションを受けて作曲された曲を、目を閉じたまま聴く。文章の語感から受けるイメージと、音楽から感じられる感覚に集中する。



(児童の感想文より)

- ・音楽を表すことの勉強でおもしろかったです。有名な作曲(家)たちもこの様に曲をつくったのかなと思うと興味深いです。

#### 6) 鑑賞④ 月の光 (ドビュッシー)

「月の色は何色？」という問いに、児童らから、黄色、白、灰色、赤などの意見が出る。月の色や柔らかい光を想像しながら、演奏を聴く。

\*仲道氏のことば

- ・どんなお月様が見えたかな？もしかしたら光の色だけでなく、空気も感じる事が出来たかな？

(児童の感想文より)

- ・月の曲はとてもきれいな曲でした。レモン色のような「まんげつ」でした。とてもきれいな音でした。

#### 7) 鑑賞⑤ 喜びの島 (ドビュッシー)

絵画作品にインスピレーションを受けて作曲されたと言われている作品を聴く。演奏前に、表現されている内容についての説明を受け、曲に対するイメージが湧き、期待が高まる。

\*仲道氏のことば

- ・お日様や波がキラキラしていて、船が汽笛を鳴らしながら海を進んでいく。そんな情景が目には浮かぶような作品です。音が見えるように聞こえてきます。

(児童の感想文より)

- ・ピアノをひいているときに、何か言っているようなところから表現したいこと、感情を入れていることがつたわってきました。
- ・5曲目の「喜びの島」が次々と映像が浮かんで来て、まるで一つのアニメを見ているようでした。

## ◎ワークショップ (45分)

➤ 導入～「聴く」という行為の意識化と、創作活動のための雰囲気づくり

### ① 「それは知らない」ゲーム (音に対する注意力を高め、言葉を使わないコミュニケーションの体験)

全員が教室内にバラバラに広がり、仲道氏の合図で一斉に「彫刻」になり静止する。それから、仲道氏は一人一人にマラカスやタンバリン、鈴などの楽器を手渡し、渡された児童はその時から楽器を鳴らし始める。ただ鳴らすのではなく、「静けさ」を表現することがルールである。次第に音が増えて全員が音を出している状態になる。それから仲道氏が無言で合図を送り、それを受けた児童は動きを止め「彫刻」に戻る。だんだん音が減っていき、最後の一人がストップすると、静寂が訪れた。活動の間は全員が無言であるが、まわりの音を聴いている。



(児童の感想文より)

- ・ 2時間目の「それは知らない」は、自由に思うがままに静けさをイメージして音を出していたのでよかったと思います。
- ・ ひびきや静けさ、私たちも楽器を使うとき気をつけて感じたいと思います。

### ② 「歌」(谷川俊太郎)の提示(言葉から受けるインスピレーションを得て、自分の表現へと結びつける準備)

ホワイトボードに書いた詩を仲道氏が朗読し、それについて児童から意見を聞き、みんなで考える。



\*児童のことば

- ・ 歌が自分で、歌われているのは誰かほかの人。
- ・ 何かのものが歌ってる。
- ・ 「夜の休止符」って、暗い感じ。
- ・ 自然の中にいる感じ。
- ・ いろんな音が自分の耳に入ってくる感じ。
- ・ ひとりでいろんな所を散歩しながら、いろんなことを思っている。

\*仲道氏のことば

- ・ どんな場所において、どんな事を考えているのか。どんな気持ち？誰かと一緒にいる？温かい？冷たい？
- ・ 言葉にならない感覚って、あってもいい。心の中では、いろいろ思っていると思う。
- ・ (児童の意見に対して) 素敵な感じ方ね。

➤ 創作～グループ活動

### ③ 音楽づくり

詩から受けたイメージを、音やリズムで表現する創作活動。形式は自由。児童7～8人のグループにファシリテーター2人が参加。鉄琴・木琴・マラカス・タンバリン・鈴・カスタネット・トライアングル・カバサ・ギロ・クラベス・ジャンベなどを使用。児童のアイデアをファシリテーターが拾い上げ、コミュニケーションを図りながら形にしていく。



\*児童のことは

- ・6連あるから、ひとつづつやっつけていこうよ。
- ・(ジャンベと叩く児童) これって心臓っぽくない?
- ・(木琴で同じフレーズを繰り返している児童) 歌がずっと続いている感じ。(低音で) 川の底の音って感じ。
- ・木琴と鉄琴は音色が違うから、木琴は木々で、鉄琴は川かな。
- ・最後の「休止符」って、暗い感じ
- ・亡くなった人が、大切な生きている人のことを思っているっていう感じ。
- ・木琴メインにやってみて。それにみんなが合わせてみるから。
- ・心臓の鼓動は、最初速くて、だんだんゆっくり。

\*仲道氏のことは

- ・いいところに気が付いた。いいアイデアね。
- ・一人一人のイメージがあって、それをつなげるのが歌なのかな。

#### ④ 発表

再び全員が音楽室に集合し、グループごとに発表しあう。自分たちの表現を披露することと、他のグループの発表を聞くことで、それぞれの表現の違いに気づき、工夫したところや良いところを発表しあうことで、分析的に聴く力を養う。



(児童の感想文より)

- ・2時間目の活動では、みんなと力を合わせることで大きなものになるということが分かりました。
- ・みんなといろいろな楽器を使っていろいろな曲になったのが楽しかったです。同じテーマなのに、ちがう曲になっておもしろかったです。
- ・グループでリズムを作って発表するという事は、これからの自信につながっていくと思うのでとてもよかったです。みんなの発表もすごかったです。
- ・音楽の楽器の音やリズムのことが、よりわかって楽しかった。

◎教師のアンケートより

- ・音楽づくりでは、子どもたちの言葉を大事にいただき、自分のアイデアを取り入れられた子どもたちにとっては、とても満足感のあった活動になったのではないかと思います。

◎ファシリテーターのアンケートより

- ・今回はリズムや拍が無かったにもかかわらず、最初どうなるか不安でしたが最終的にはどのグループも個性が出ていて、良い経験になったのではないかと思います。
- ・少し目立たないけど、ボソボソと言っている女の子が「音を重ねていって、一つずつ抜けていく…」などナイスな言葉を言っていました。活発な子だけの意見を取り入れてしまいそうになりますが、今回はその女の子の意見でやってみて、良かったです。子どもはその詩のまま、自然に、他の課題と同じように楽しみながら曲を作っているのが、とてもすごいなと思いました。

## 《まとめ》

今回で4回目となる七ヶ浜音楽アウトリーチは、今までと同様に、鑑賞型プログラムと体験型ワークショップの2本立てで行われた。今回のプログラムでは、初めにいくつかのねらいを挙げている。

- ・曲を聞いてイメージする
- ・曲の中の音の動きを体感する
- ・曲の背景を知り、より深く曲を聴く
- ・言葉と音楽の関係について、考えながら聴く
- ・自分が感じたこと、他の人が感じることの相違に気が付く

これらは、図らずも認知心理学的なアプローチとなっている。子どもにとっては、「日常的でない音楽」や「知らない曲」を鑑賞するという事は、与える側の気持ちとは裏腹に、理解できない苦痛とトラウマを生じてしまう場合がある。しかし、適切なサポートがあれば難解と思われるものも姿形が見えてくるし、それを「認め、知る」、すなわち認知することが可能になるのである。今回のように演奏家本人の口から語られ、至近距離で演奏を聴くと、なお一層心に響き、音楽の輪郭が姿を現してくるのである。これは子どもに限らず大人でも同じことが言える。1時間目の鑑賞プログラムでは、この手法が功を奏し、児童を音楽理解・音楽受容へと導いた。また文章や絵画と音楽の関連性も、児童にとっては新しい聴き方の示唆となっただけではないかと思われる。

2時間目は児童の自己表現とコミュニケーション能力の向上を目指したワークショップである。現代社会の荒波の中を生きる子どもたちが今後獲得していかなければならない、とても重要な課題にアプローチする創造活動であった。具体的な指示は、「詩の文章から感じられることを音やメロディーに表す」という事だけである。普通であれば児童は何をどうしたら良いか分からずに、音の羅列になってしまう可能性が高いのだが、このアウトリーチでは、1時間目の下地があったために、創作への垣根も取り払われていたように感じられた。児童のグループにはファシリテーターが加わり、仲道氏の適切な声掛けによって児童は後押しされ、積極的に取り組む児童が多く見られた。中には、楽器を手にした途端に遊んでしまう児童もいたが、ファシリテーターやグループの他の児童からの声掛けによって、次第に創作に加わっていった。今回はどの小学校もグループ内のコミュニケーションが活発だった印象がある。

最後にそれぞれのグループの作品発表と、それに対して感想や意見を発表しあうことで、協働する実感を得ることや他者を認めることがねらいであるが、その中で大事だと思えるのは、自己実現である。多くの児童が感想文に「みんなと協力して楽しかった」と書いているのは、『グループの中で、言葉でも楽器でも自己表現が出来た』という満足感である。つまり『集団の中の個の自己実現』である。その気持ちを後押ししたのが、発表の時、それぞれ工夫したところを丁寧にすくい上げ、評価した仲道氏の言葉である。

仲道氏のアウトリーチ活動は古典的なアウトリーチ活動から脱し、革新的なアウトリーチ活動へと舵を取り続けている。今後も教育的課題にアプローチする活動として、大いに期待したい。(近畿大学豊岡短期大学 鈴木香代子)

### 【助成対象経費報告】

一行：7名

移動費（東京・仙台往復）：160,030円

グリーン往復 29,270円×1名

普通往復 21,890円×4名

普通往復 22,370円×1名

大宮・仙台往復 20,830円×1名

宿泊費（ホテルキャッスルプラザ多賀城）136,200 円

@9,300 円×1名×4泊、@6,600 円×3名×4泊、@6,600 円×1名×3泊

上記に係る消費税 10,896 円

ピアノ調律経費 151,200 円

合計：458,326 円（うち支援対象経費 300,000 円）